

交付運用報告書

スーパーファンド・ジャパン

サブファンド・ゴールド・シルバー・プラス・マイニング

ケイマン籍 オープンエンド契約型 外国投資信託（円建て、米ドル建て）

作成対象期間（第17期）：自 2025年1月1日 至 2025年12月31日

～ 受益者の皆様へ ～

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

当サブファンドは、オーストリア・ウィーンにて創立されたスーパーファンドグループの、外国籍公募投資信託です。

ケイマン諸島における分別ポートフォリオを運用する適用免除有限責任会社として登録され、投資会社としてのみ活動するマスターファンドへの投資を通じて、証券市場の動静から独立した投資形態を投資家の皆様に提供するために設立されました。スーパーファンドの投資顧問会社であるスーパーファンド・キャピタル・マネジメント・インクによる、トレーディング・ソフトウェアを使用した最新の取引システムに基づき、マスターファンドは運用されます。

ここに、当サブファンドの第17期の運用状況等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第17期末	
円ヘッジ無し・クラス	
1 □ 当 た り 純 資 産 価 額	162.85円
純 資 産 総 額	472百万円
第17期	
円ヘッジ無し・クラス	
騰 落 率	+62.85%
1 □ 当 た り 分 配 金 額	0円

(注1) 純資産総額は、1口当たり純資産価額に、当期末の発行済口数を乗じ、小数点第1位を四捨五入して計算された値を記載しており、運用報告書（全体版）に記載されているファンドの財務書類における数値と一致しない場合があります。

(注2) 騰落率は、税引前の分配金（もしあれば）を分配時に再投資したものとみなして計算しています。以下同じです。

(注3) 1口当たり分配金額（もしあれば）は、税引前の分配金額を記載しています。以下同じです。

(注4) 当サブファンドは2025年6月3日より運用が開始されたため、2025年6月3日から2025年12月31日の期間の騰落率を表示しています。

(注5) 当サブファンドの米ドル・クラスについては、購入実績がないため、情報がありません。以下同じです。

その他記載事項

運用報告書（全体版）は代行協会のウェブサイト（<https://www.superfund.co.jp>）にて電磁的方法により提供しており、「ドキュメント」において閲覧及びダウンロードすることができます。

※ 当サブファンドの運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

【管理会社】

スーパーファンド・ジャパン・
トレーディング（ケイマン）リミテッド

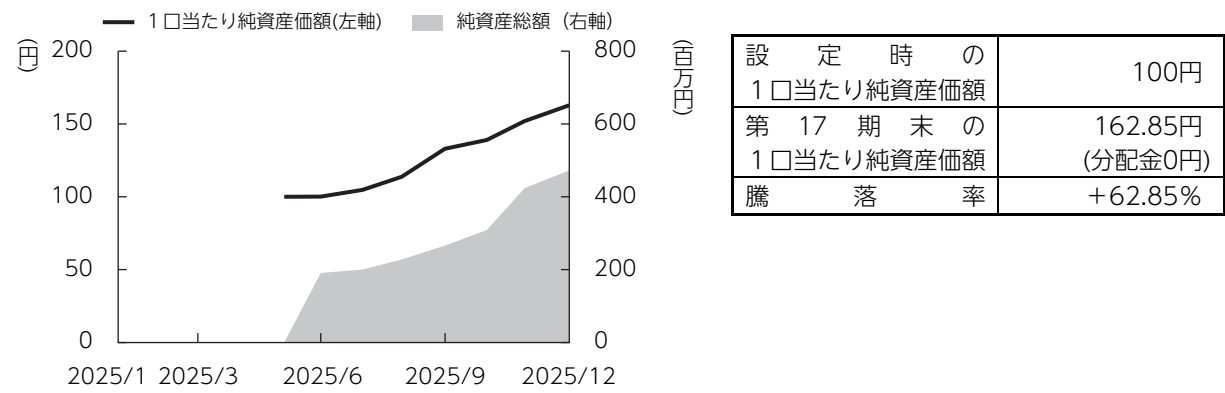
【代行協会員】

スーパーファンド・ジャパン株式会社

運用経過

■ 当期の1口当たり純資産価額等の推移について（2025年1月1日～2025年12月31日）

円ヘッジ無し・クラス（ファンドの運用は2025年6月3日から開始）



設 定 時 の 1口当たり純資産価額	100円
第 17 期 末 の 1口当たり純資産価額	162.85円 (分配金0円)
騰 落 率	+62.85%

(注1) 当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。
(注2) 騰落率は、設定時の1口当たり純資産価額との比較において計算しています。
(注3) サブファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
(注4) サブファンドにベンチマークは設定されておりません。

■ 1 口当たり純資産価額の主な変動要因

【円ヘッジ無し・クラス】

主として金、銀、パラジウム及びプラチナ並びにその他の金属に焦点を当てる株式、証書、ETF、その他の証券及びファンドに投資をします。実質的に株式に投資をするので、当サブファンドの純資産価額は、株価変動の影響を受けます。また、特定の業種・テーマに絞った株式に（実質的に）投資を行いますので、より幅広い業種・テーマで株式に分散投資した場合と比べて純資産価額が大きく変動する場合があります。

円ヘッジ無し・クラスは、為替が円安に変動することでキャピタルゲインが生まれ、円高に変動することでキャピタルロスが生まれます。

【米ドル・クラス】

主として金、銀、パラジウム及びプラチナ並びにその他の金属に焦点を当てる株式、証書、ETF、その他の証券及びファンドに投資をします。実質的に株式に投資をするので、当サブファンドの純資産価額は、株価変動の影響を受けます。また、特定の業種・テーマに絞った株式に（実質的に）投資を行いますので、より幅広い業種・テーマで株式に分散投資した場合と比べて純資産価額が大きく変動する場合があります。

■ 費用の明細 (2025年1月1日～2025年12月31日)

項 目		比率又は金額	項 目 の 概 要
管 理 報 酬		当サブファンドの純資産価額の年率0.10%	受託会社、事務管理会社及びカस्टディアンその他の者との間のやりとり、当サブファンドの活動に関連する契約の管理、申込及び償還を含む投資活動の運用管理の対価
代 行 協 会 員 報 酬		当サブファンドの純資産価額の年率0.10%	日本の法令及び日本証券業協会の規則に従い、受益者への目論見書や財務書類を送付し、純資産価額を公表する等の業務に対する報酬
受 託 会 社 報 酬		当サブファンドにつき年間11,000米ドル	信託証書に従って行う当サブファンドの受託業務に対する報酬
事 務 管 理 報 酬	当ファンドの事務管理及び振替代行報酬	当サブファンドにつき年間5,400米ドル	各評価日における純資産価額の計算、受益権者名簿の管理、締結された申込に係る契約及び申込の受領並びに処理、電磁的方法による受益証券の発行証明及び保有報告書の作成並びに送付などの役務の対価
	年次財務諸表の作成	当ファンドにつき年間1,500米ドル	関連する規制に則した年次財務諸表（監査済み）の作成及びその補助の対価
販 売 会 社 報 酬		当サブファンドにつき純資産価額の年率1.0%	販売の手配を行うことへの対価
そ の 他 の 費 用 （ 当 期 ）		0.54%	監査費用、その他信託事務の処理に要する諸費用

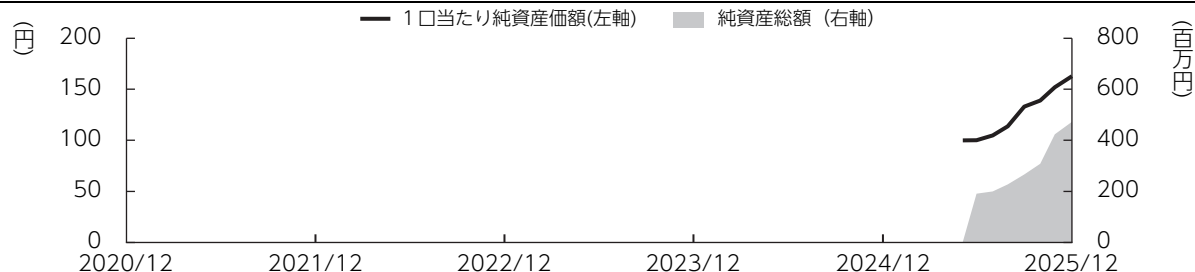
(注1) 各報酬については、目論見書に定められている料率又は金額を記しています。「その他の費用（当期）」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、当期のその他の費用の金額を当サブファンドの当期末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

(注2) 各項目の費用は、サブファンドが組み入れている投資先ファンドの費用を含みません。

(注3) 当サブファンドに係る上記諸費用は、対応するマスターファンド（分別ポートフォリオ）の運用資産残高がそれぞれマスターファンドの投資顧問会社が随時決定する一定額に達するまで、当サブファンドに代わり管理会社又はマスターファンドの投資顧問会社が負担するため、当期中に実際にかかった費用は純資産総額の0.34%でした。

■ 最近5年間の1口当たり純資産価額等の推移について (2020年12月31日～2025年12月31日)

円ヘッジ無し・クラス (ファンドの運用は2025年6月3日開始)



	設定時 2025年6月3日	第17期末 2025年12月31日
1口当たり純資産価額(円)	100.00	162.85
1口当たり分配金額(円)	—	0
騰落率(%)	—	+62.85
純資産総額(百万円)	—	472

(注1) 騰落率は、設定時の1口当たり純資産価額との比較において計算しています。なお、当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では1口当たり純資産価額のみを記載しています。

(注2) 純資産総額は、1口当たり純資産価額に、各期末の発行済口数を乗じ、小数点第1位を四捨五入して計算された値を記載しており、運用報告書(全体版)に記載されているファンドの財務書類における数値と一致しない場合があります。

(注3) サブファンドにベンチマーク及び参考指数は設定されていません。

(注4) 当クラスは2025年6月より運用が開始されたため、2025年5月以前の情報がありません。

■ 投資環境について

2025年の世界の金融市場は、ボラティリティの上昇に特徴づけられました。通商政策の変化、金融政策に関する不確実性、地政学的緊張が、投資家心理の急速な変動を引き起こしました。ドナルド・トランプ氏の大統領復帰が全体の基調を形成し、財政拡張や保護主義政策への期待が各資産クラスの動向に大きな影響を与えました。米国株式市場は、テクノロジー及び小型株セクターの上昇に支えられ、相対的な強さを示しました。一方、欧州市場は、低成長やフランス及びドイツの政治的不安定性を背景に出遅れました。債券市場は、中央銀行がインフレリスクと景気減速の間で難しい判断を迫られたことから、変動の大きい展開となりました。特に日本では、日本銀行が前年7月以来初めて政策金利を引き上げ、当初0.5%、その後0.75%と、過去30年間で最高水準に達した点が注目されました。コモディティ市場も大きく変動しました。原油価格は1月に一時1バレル75米ドルを上回りましたが、年末には約57米ドルで終了しました。一方で金は安全資産需要の高まりを受け、繰り返し過去最高値を更新しました。為替市場では、経済の分化が反映され、米ドルは年初に強含みましたが、その後は下落しました。デジタル資産も、規制動向やリスク選好の変化により大きく変動しました。

■ ポートフォリオについて

< 当サブファンド >

当サブファンドは、マスターファンドへの投資によって当該マスターファンドと同一の投資目的を追求しました。結果、マスターファンドへの投資比率は、概ね95%以上を維持しました。

< マスターファンド >

マスターファンドは、原則として実物資産の裏付けのある貴金属（金、銀、パラジウム及びプラチナ）関連ETF及び上場鉱山会社株式を投資対象とする株式ファンドです。

コモディティ市場は、地政学リスク、供給制約、需要構造の変化により大きく変動しました。金価格は安全資産需要により3月に1オンス3,000米ドルを超え、その後は4,000米ドルに迫る水準まで上昇しました。銀価格も工業需要とインフレ懸念に支えられて好調でした。テクノロジー及び小型株セクターが主役となった株式市場では、鉱山会社株式は、相対的に低いバリュエーションではありましたが、資源価格の上昇や堅調な市場全体の流れから堅調な実績を実現しました。本戦略は2025年6月から運用開始いたしましたが、堅調な運用実績を実現することができました。

■ ベンチマークとの差異について

当サブファンドにはベンチマーク及び参考指数はありません。

■ 分配金について

当サブファンドには分配金はありません。

今後の運用方針

今後の運用方針については、これまでの投資方針が引き続き採用され、マスターファンドと同一の投資目的を追求する予定です。

お知らせ

2026年4月17日付で、当ファンドの受託会社の社名がハーニーズ・フィデューシャリー（ケイマン）リミテッドから、アセンティウム（ケイマン）リミテッドに変更されました。

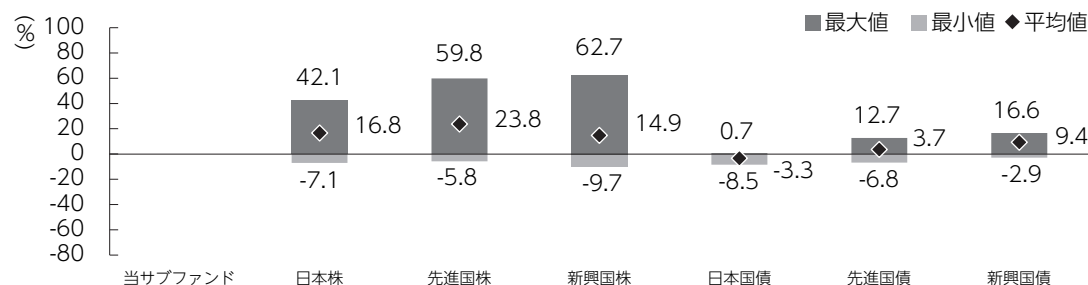
当サブファンドの概要

ファンド形態	ケイマン籍 オープンエンド契約型 外国投資信託（円建て、米ドル建て）	
信託期間	信託設定日は2009年6月5日、償還日は設定日から150年後	
運用方針	マスターファンドの投資顧問会社が随時選定するテクニカル分析ソフトウェアを使用したトレーディング・シグナルに基づいて運用されます。当サブファンドのマスターファンドは、投資機会を活かし、最新のトレーディング戦略を利用する予定であるため、将来の運用について、現時点で既定されたものではなく、またいかなる制限を受けるものでもありません。マスターファンドの投資顧問会社は、マスターファンドが上場先物及び店頭デリバティブ（外国為替取引を含みます。）の取引においてレバレッジを用いることにより高い収益が見込めると判断したときに、レバレッジを利用することができます。	
主要投資対象	当サブファンド	スーパーファンド・グリーン・ゴールドSPCのサブファンドであるスーパーファンド・ゴールド・シルバー・プラス・マイニング・ファンド分別ポートフォリオの利益参加シェア
	マスターファンド	貴金属（金、銀、プラチナ、パラジウム等）のETF等、及び金鉱会社や銀鉱会社等のそれら金属に焦点を当てる株式等
分配方針	現段階では分配を行う予定はありません。但し、管理会社はその裁量で分配を決定する権利を留保しています。	

(参考情報)

ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

円ヘッジ無し・クラス



※ すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

※ 2021年1月から2025年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値をファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

※ 当サブファンドは2025年6月に運用を開始したため、年間騰落率は記載していません。なお、当サブファンドの米ドル・クラスについては、2026年6月末日現在、運用実績はありません。

○各資産クラスの指数

日本株 …… 東証株価指数 (TOPIX) (配当込)

先進国株 …… MSCI-KOKUSAI指数 (配当込) (円ベース)

新興国株 …… MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込) (円ベース)

日本国債 …… FTSE日本国債インデックス (円ベース)

先進国国債 …… FTSE世界先進国債インデックス (円ベース)

新興国国債 …… FTSE新興国市場国債インデックス (円ベース)

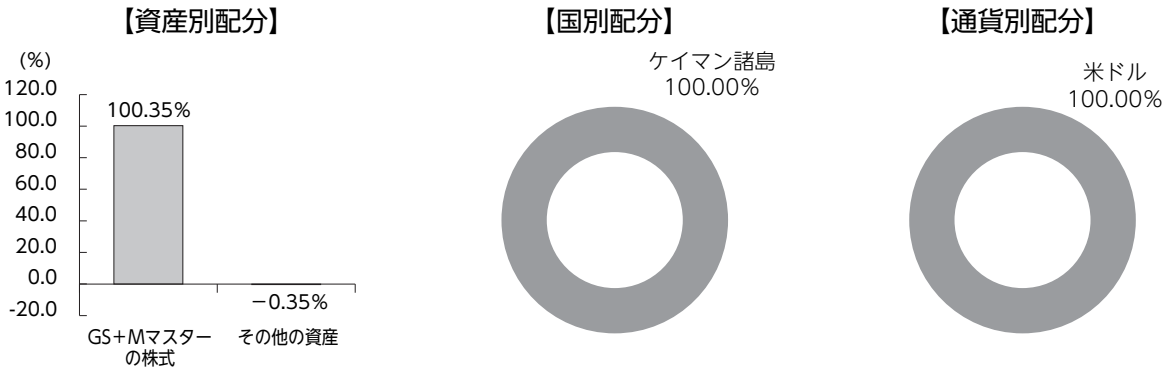
ファンドデータ

■ 当サブファンドの組入資産の内容（2025年12月31日現在）

【組入ファンド】（組入銘柄数：1 銘柄）

資 産 の 種 類	組 入 比 率
スーパーファンド・グリーン・ゴールドSPCの株式（スーパーファンド・ゴールド・シルバー・プラス・マイニング・ファンド分別ポートフォリオのクラスA（米ドル）の利益参加シェア） （以下、「GS+Mマスターの株式」と表記）	100.35%
現金、受取債権及びその他の資産	-0.35%

（注）組入比率は純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合です。以下円グラフも同様です。



（注 1）組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

（注 2）組入資産の内容は、当サブファンドの財務書類の記載によります。

■ 純資産等（2025年12月31日現在）

項 目	第17期末
純 資 産 総 額	472,431,254円
発 行 済 口 数	2,900,958口
1 口当たり純資産価額	162.85円

（注 1）純資産総額及び発行済口数は、当サブファンドの財務書類の記載によります。

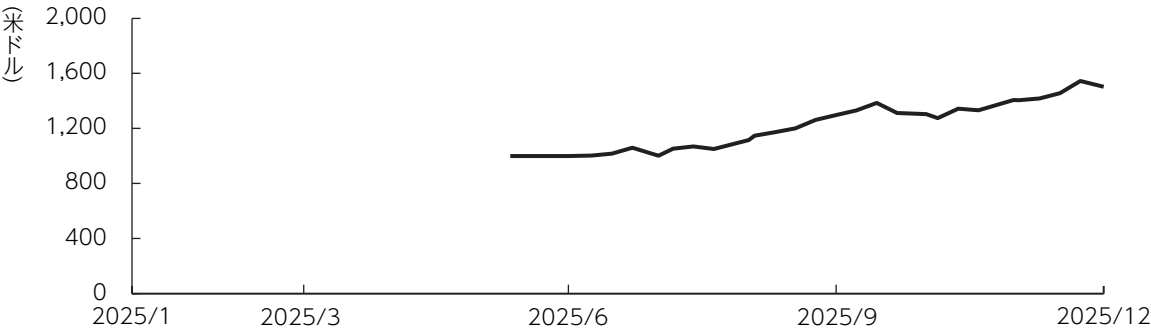
（注 2）当期中における追加設定元本額は327,702,362円です。

■ 投資先ファンドの概要 (2025年1月1日～2025年12月31日)

■ スーパーファンド・グリーン・ゴールドSPC (マスターファンド)

スーパーファンド・ゴールド・シルバー・プラス・マイニング・ファンド分別ポートフォリオ クラスA (米ドル) (運用開始は2025年6月※)

【1口当たり純資産価額の推移】



※2025年6月4日から6月10日までの純資産価額をもとに算出した、2025年6月10日の1口当たり純資産価額以降の1口当たり純資産価額をもとにグラフを作成しております。

【保有銘柄情報】

(2025年12月31日現在)

上位保有銘柄	業種	通貨	国 (地域)	比率
Vaneck Junior Gold Miners UCITS ETF	素材	米ドル	アイルランド	5.29%

(注1) 上記は財務諸表の記載によります。これ以外の保有銘柄は、それぞれ組入比率が数パーセント程度のため記載しておりません。

(注2) 比率は、純資産総額に対する割合です。

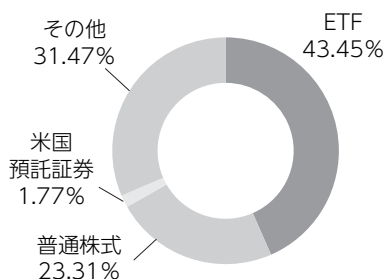
【費用の明細】（2025年1月1日～2025年12月31日）

項 目	項 目 の 概 要	
管 理 報 酬	クラスA（米ドル）利益参加シェアの純資産価額の年率1.5%	
成 功 報 酬	クラスA（米ドル）利益参加シェアの純資産価額の増加額のうち毎月10%（ハイウォーターマーク方式を適用）	
販 売 会 社 報 酬	スーパーファンド・ゴールド・シルバー・プラス・マイニング・ファンド分別ポートフォリオにおいては課されない	
事 務 管 理 報 酬	事 務 管 理 報 酬	スーパーファンド・ゴールド・シルバー・プラス・マイニング・ファンド分別ポートフォリオにつき年間12,600米ドル
	年次財務諸表の作成	スーパーファンド・グリーン・ゴールドSPCにつき年間1,500米ドル
その他の費用(当期)	監査報酬、保管費用、その他信託事務の処理に関する諸費用 0.64%	

(注1) 各報酬については、目論見書に定められている料率又は金額を記しています。「その他の費用（当期）」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、上記期間のその他の費用の金額を投資先ファンドの上記期間末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

(注2) 当マスターファンドに係る上記諸費用のうち、マスターファンドの投資顧問会社に対して支払われるべき手数料については、マスターファンドの投資顧問会社が受領を放棄しており、マスターファンドの投資顧問会社以外の者に対して支払われるべき手数料については、当該マスターファンドに代わりマスターファンドの投資顧問会社が負担したため、実際に支払われた費用はマスターファンド純資産総額の0.16%でした。

【資産別配分】



(注) 「資産別配分」の比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

【国別配分】、【通貨別配分】については、公開されている情報がないため記載しておりません。